販売店・工事店様へのお願い

● 安全上のご注意　**必ずお守りください**

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、次のような絵表示をしています。

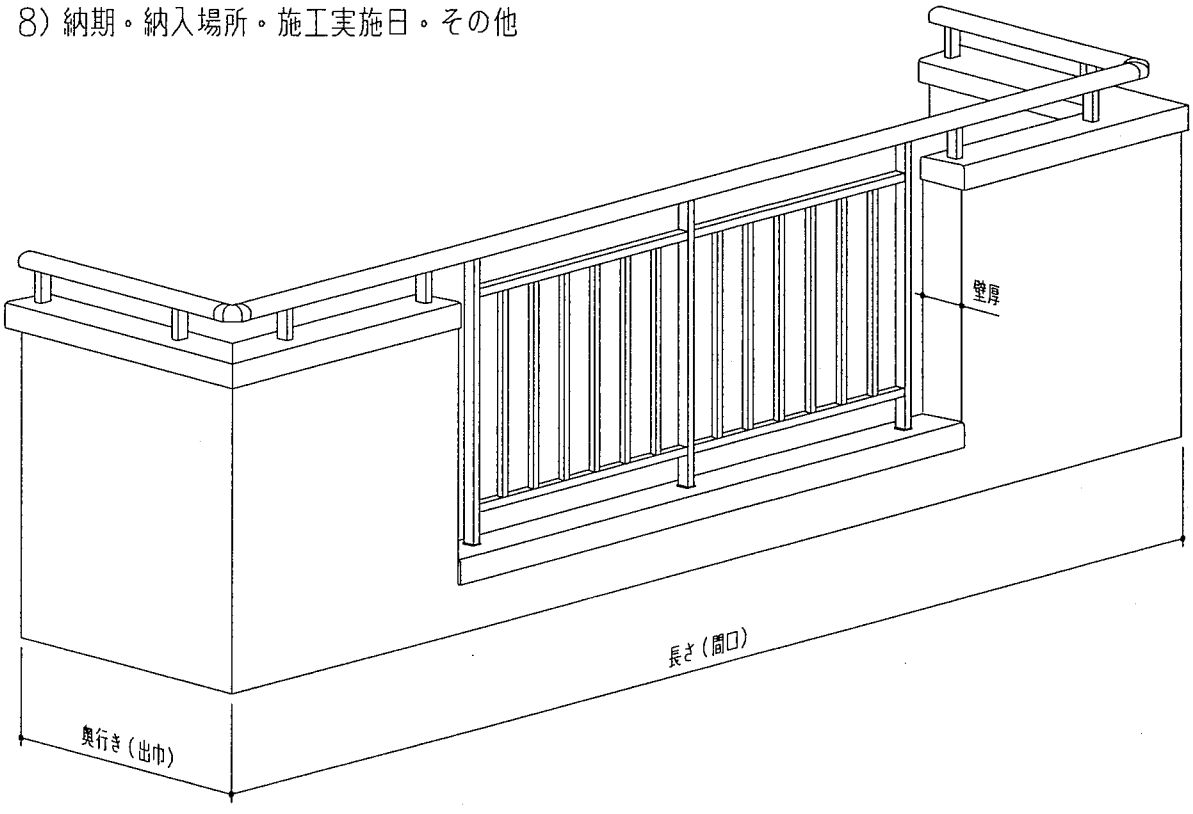
絵表示	意味
⚠注意	取り扱いを誤ると、使用者が障害を負う危険や物的損害の発生が想定されることを示します。
お願い	「禁止」を示しています。
	「必ず行なっていただく事」を示しています。

◎ 見積・受注について

見積・受注の際、物件内容を良く把握していませんと後からトラブルの原因となりますのでご注意ください。

見積・受注に当たっては、特に次の点を確認してください。

1) 長さ（間口）
2) 奥行き（出巾）
3) タイプか：A，B，C，D，F，G，H，Iのどのタイプか
4) 壁厚及び壁仕上げ厚（パラペット巾、取付けビス長さの選定）
5) 納まり　：　パラペット納まり　，　直付け納まり　，　柱埋め込みの有無
6) 軀体構造　：　木造　，　鉄筋コンクリート造　，　鉄骨造　等
7) 加工の難易度　：　切り詰め有無、特殊納まり等
8) 納期・納入場所・施工実施日・その他



◎ 現場下見・施工前確認事項について

施工前の現場下見

取付けに当たって確認しなければならない項目にいくつかありますので、

必ず現場の下見を行なってください。

現場の下見をする際は、受注内容の確認と同時に次の施工上のチェックもしてください。

1) 建物の設計図を充分検討してください。

施工前に建物の構造、取付けスペース、笠木取付け部の仕上げ等の確認をしてください。
設計図が無く施工上不明な点がある場合は、チェック項目に添って充分な現場確認をしてください。

2) 建物の構造を確認してください。

建物の構造によって、取付けボルト等の種類が異なります。

A) 建物が木造軸組みの場合

木ネジ 、コーチスクリュー

B) 建物が鉄筋コンクリート造の場合

プラグビス 、アンカーボルト

C) 建物が鉄骨造の場合

タッピングネジ 、溶接

3) 防水処理の確認してください。

笠木取付け部（ベースアンカー取付け部）の防水処理（防水シート等）が確実に施されているか、

確認してください。

雨漏れの原因は、手摺本体よりも軀体の防水処理が充分にされていない場合に発生しますので、

天面に防水シートの有無を確認し、軀体に孔を明けた場合には必ずシーリングをしてください。

尚 、ベースアンカーを止めたビスの頭にも、シーリングをしてください。

お願い

施工完了後恐れ入りますが、注意ラベル（別売品 AKTML 50枚入り）を準備して、
パラペット、又は笠木の、室内側から見える箇所に貼付けてください。

◎ 設計・施工上のご注意

⚠ 注意

1) 商品に貼付されている注意・取扱説明のラベル等を、はがさないでください。

2) 施工の際、軀体へのコーチスクリューや木ネジは、たたき込まずに確実に、ねじ込むようにしてください。

3) 水平・垂直・直角は必ず正確に出してください。
正確に出ていない場合、取付けが出来ないことがあります。
また正確に取付けが行われていませんと、十分な強度が出ませんので大変危険です。

4) 取付けの際、ボルト・ネジ等は規定本数を締め付け固定してください。また建物に孔をあけたり、ネジを止めたりした場所には、確実にシーリングを施してください。

5) シーリング指定箇所は必ずシーリング処理をしてください。特に部材接合面は念入りにシーリング処理を行ってください。シーリング処理が十分に行われていない場合雨漏れ等により軀体を傷め、手摺りの強度が出ませんので充分注意してください。

6) 笠木から床面までの高さは、1100mm以上に設計してください。

お願い

1) 施工を初めてから手直しが出ないよう、事前に調査や打ち合わせを充分に行ってください。

2) 製品の運搬や取付けの際は、キズをつけないように気を付けてください。
また、他の工事終了後養生テープをはがしてください。

3) 加工・組立取付けは、本説明書に従って行ってください。取付け手順が違いますと組み立たない場合があります。

●アルミ製品を他建材製品と施工する上でのご注意

新日軽のアルミ製品は、JISの表面処理規定を十分クリアーした製品をお届けしていますが、取扱いによっては異常腐蝕をおこし、思わぬトラブルとなりますので施工にあたっては次のような点をご注意ください。

●アルミ製品と 銅板やラス等 の異種金属が接触しないようにしてください。接触する場合には、ビニルテープ等を貼るか塗装等で絶縁処理を行ってください。

● 輸入木材 には、塩素イオン等の腐蝕成分が多く含まれているものがありますので、その使用を避けていただくかアルミニウムと接触する部分は木材に塗装するようにしてください。

●モルタル用に 海砂 を使用されますと、多量に含まれた塩分が腐蝕の原因となりまので、その使用を避けていただくか、十分水洗いしたものを使用してください。

●モルタルやコンクリートの 抽出液 が工事中にアルミ製品の表面に流れないように注意してください。
抽出液は強アルカリ性であるため、しみやムラ等の外観不良や腐蝕の原因となります。

●モルタルやコンクリートの 凝結材 は腐蝕の発生や促進作用がありますので、その使用を避けていただくか、塩化カルシウムや塩素系の化合物・硫酸ナトリウム等の入っていないものを使用してください。

●施工時にアルミ製品の表面に 付着 したモルタルやコンクリート等は、速やかに清掃してください。
また、表面にキズをつけますと腐蝕しやすくなりますので取扱いに十分注意してください。

●腐蝕の恐れのある 接着材や科学薬品 を施工上使用する場合は、アルミ製品と接触しないようにしていただくか、接触する部分を完全に養生してください。

◪ メンテナンスについて

● アルミ建材商品お手入れのお願い

アルミニウムはサビにくい性質をもっており、その上に JIS 規格を十分にクリアーした表面処理をしていますが、煤煙や砂、泥が付着したまま放置して置きますと、化学的、電気化学反応等でアルミ表面を侵し点触等の腐食を発生させる原因となります。アルミ住宅建材商品をいつまでも美しくお使いいただくために、定期的なお手入れをおすすめいたします。

プラスチック製（PVC）商品取り扱い上の注意点

- 火気及び高温物・高熱源の器具等を接触したり、近づけないように十分注意してください。
- 通常の使用には十分耐えられる構造になっていますが、部分的に衝撃を与えますと、破損する恐れがありますので乱暴な取り扱いは避けるようにしてください。

■ 汚れの程度と清掃方法

汚れの程度	表面の種類	用具及び洗剤	清掃方法	備考
軽度の汚れ	アルミ形材	中性洗剤（注1） クリーナー（注2）	クリーナーまたは中性洗剤を含ませた布で筋目方向に表面を軽くこすって汚れを除去した後、水洗いし乾拭きします。	一定方向にこすります。コーナー部を過度にこすらないように注意してください。虹模様のときも同様にしてください。
	塗装仕上げ<鋳物製品・ホワイト色の商品>	柔らかい布等と中性洗剤（注1）	中性洗剤を含ませた布などで表面の汚れを除去して、水洗いし乾拭きします。	ベンジン・トルエン等有機溶剤は塗料等の表面を溶かすので使用しないでください。
	樹脂部品	柔らかい布等と水		
汚れがめだつ場合	樹脂部品	柔らかい布等と中性洗剤（注1）	中性洗剤を含ませた布などで表面の汚れを除去して、水洗いし乾拭きします。	ベンジン・トルエン等有機溶剤は塗料等の表面を溶かすので使用しないでください。
汚れが著しく腐食（点食）を含む場合	アルミ形材	スコッチブライト（注3）	スコッチブライトで表面をこすり、汚れ、腐蝕生成物を除去した後乾拭しアクリル系の塗料を塗布し補修してください。	一定方向にこすります。コーナー部を過度にこすらないように注意してください。虹模様のときも同様にしてください。
	塗装仕上げ<鋳物製品・ホワイト色の商品>	スコッチブライト（注3） サンドペーパー#600 中性洗剤（注1）	洗剤をつけたスコッチブライトまたはサンドペーパーで表面を軽くこすり、汚れや腐食生成物を除去し、水洗後その表面にアクリル系の塗料を塗布し補修してください。	塗料で補修する前に表面をきれいに清掃してください。

（注1）例えばママレモン（ライオン油脂）、ファミリー、チェリーナ、（花王油脂）の1～2％水溶液。

（注2）例えばイージーシャイン（日本シービーケミカル）。

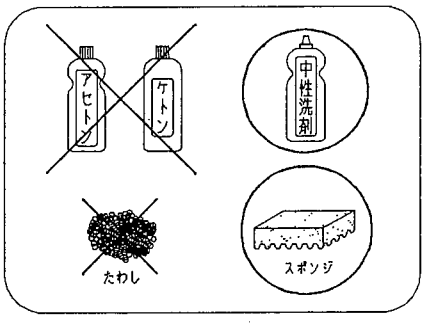
（注3）スコッチブライト（住友スリーエム）の粒度はウルトラファイン。

■ 地域別お手入れ回数

地域	回数
臨海工業地帯	年に 2～3回
工業・商業・温泉地帯	年に 2 回
海岸・街道地帯	年に 1～2回
田園・山間地帯	年に 1 回

⚠ 注意

家具・床等に使用する溶剤系のクリーニング剤や便器・タイル洗浄剤は、表面の被膜をおかしますので、使用しないでください。みがき粉、たわし等の固いものでこすらないでください。

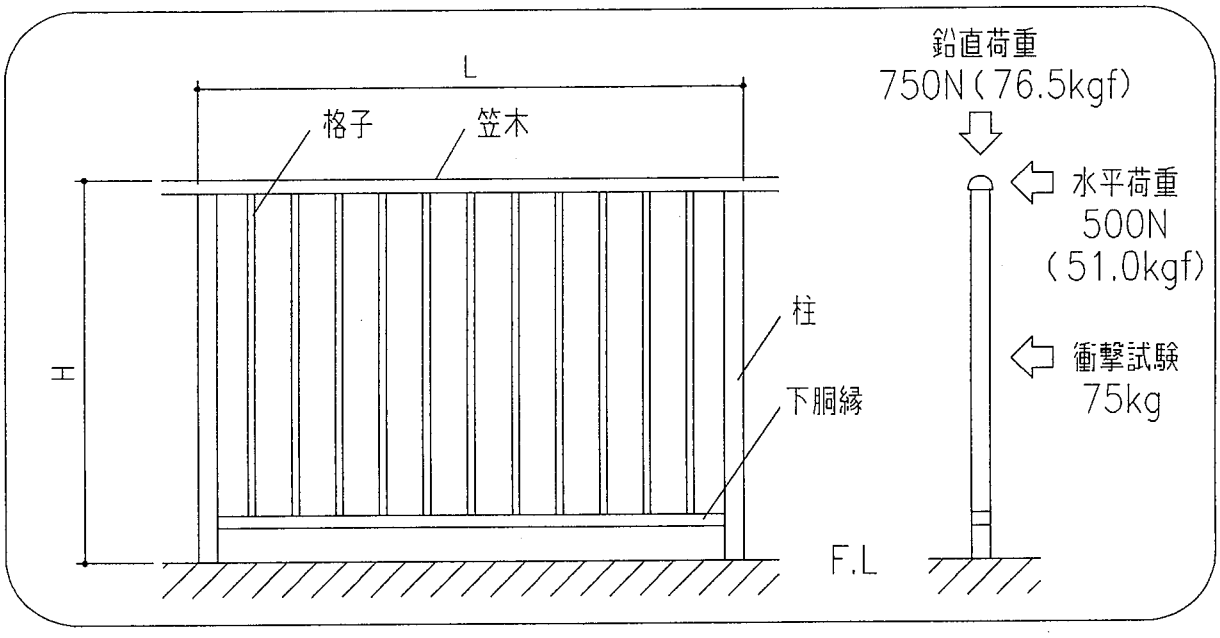


● 部品の交換について

アクリル板のヒビ割れやその他の部品を交換する場合は、最寄りの 新日軽（株）支店・営業所または 新日軽商品 取扱い店にご相談ください。

設計基準

◎ この製品は、JIS規格の手すり強度L型の強度性能及び安全規定に準じた設計です。



●手すりの強度による種類

種　類	使用範囲
L　型	主として戸建住宅に使用するもの。
M　型	主として集合住宅の非共用部分に使用するもの。
H　型	主として集合住宅の共用部分及び非共用部分に使用するもの。

●手すりの性能

試験項目			性　能		
			L	M	H
強度試験	笠木の鉛直荷重試験		最大たわみ量はL/120以下 最大残留たわみ量は L/1000(最大3mm)以下 緩みはずれがないこと。	最大たわみ量はL/250以下 最大残留たわみ量は L/1000(最大2mm)以下 緩みはずれがないこと。	最大たわみ量はL/500以下 最大残留たわみ量は L/1000(最大1mm)以下 緩みはずれがないこと。
	笠木の水平荷重試験		最大たわみ量はL/120以下 最大残留たわみ量は L/1000(最大3mm)以下 緩みはずれがないこと。	最大たわみ量はL/250以下 最大残留たわみ量は L/1000(最大2mm)以下 緩みはずれがないこと。	最大たわみ量はL/500以下 最大残留たわみ量は L/1000(最大1mm)以下 緩みはずれがないこと。
	衝撃試験	笠木	部材の折れ及び接合部の緩み、はずれがないこと。		
		格子			